

今後の幼児教育の教育課程、指導、評価等の
在り方に関する有識者検討会

1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針、
幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく
教育活動の実施状況、成果及び課題の検証

2024/02/13

全日本私立幼稚園連合会

幼稚園教育要領等の改訂における

「(2) 幼児教育の特性等」についての理解の広がりについて

5年が経過して…

- ・コロナ禍によって、特に行事において従来通りには、実施できなくなったことにより各園が行事の形ではなく、その意味（保育の意味）や行事の目的を問い直す機会を得た。
- ・公開保育や研修等もきっかけとなり、少しずつ教師主導から子ども主体への保育へと変わろうとする動きがみられるようになった。

○ 幼児期に育みたい資質・能力の育成

- ・ウェルビーイングの実現に向けどう資質・能力を育みたいか
- ・育みたい資質・能力、ねらい及び内容、
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関係

年長5歳児 11月～12月の実践事例にて現場の様子をご紹介します

毎年、冬に開催される年長児のお店屋さん、年少、年中児の憧れの店。
年長児は いよいよ自分の番となり、意気込みをもって、
何の店をするか クラスでの話し合いがスタートする

チームに分かれて活動がスタート

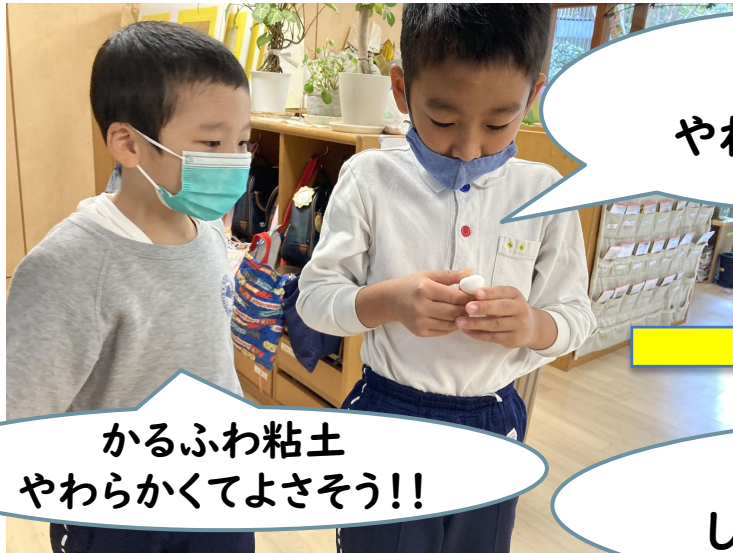
興味を持った子たちで
まずは作ってみる

困った時には
みんなに相談



思考力の芽生え
豊かな感性と表現

よりよくしたいという思いが、こだわりになり、試行錯誤が始まる



うわ!
やわらかい!!

かるふわ粘土
やわらかくてよさそう!!

上を紙粘土に
したらカチカチなるもんな~



上にのせるの
いい作戦やと
思う!



作ってみたいく
なるような
環境の構成

“本物みたいにしたい!”

- ・ 探究する力
- ・ 失敗しても諦めない

本物のような
バンズが完成



「とうもろこし作り」

自分のこととして取組む中で
さまざまな

課題と葛藤が
資質・能力を培う

トウモロコシの本物ぽさへのこだわり

- 作るのがたいへん
- 友達に手伝ってもらう
- 値段にこだわる
- 折り合いをつける



より具体的には…

A児

- ・違いを見分ける目や耳
→時間がかかる
→間に合わないことより
本物みたいにと強い思いが強い
- ・本物志向への意思の強さ
△妥協しない

B児・C児

- ・期日までに間に合わせたいという思い
- ・お店に出すのに、
肉より値段が高いのはおかしいという
価格面でのA児との葛藤
△全体的にできそうにないことはしない

とうもろこし作りを通して、

3人の葛藤が様々な学びに繋がる





小学校の校長先生をはじめ先生方にも保育を公開し
幼稚園での取組みを伝える

今後の課題

- ・保育者主導の保育から、子ども主体の保育に切り替えていく際は、現場では保育者が働きかけてはいけないという気持ちになりがちである。また、そういう誤解もありがちである。
幼児の主体性を育むには、保育者の意図性ととともに
幼児理解のもとに、保育者もまた、主体的に環境やかかわりを考えて
実践する「共主体」「共同エイジェンシー」という捉え方への
理解を図る必要がある。
- ・「資質・能力ベース」と「教授型」の保育実践の2極化も課題である。
保護者による園選択の自由は最も保障すべきものである。
その上で、保護者の選択に資する幼児教育の啓発が必要である。

- ・資質・能力や10の姿は、幼稚園の現場の保育者自身が、その力が乳幼児期から育まれているという実感を得て小学校との接続に活かそうという視点がもてるようになってきた。
- ・架け橋委員会等で議論も始まり、幼児期の遊びは、学習と余暇という対立概念ではなく、主体的・対話的で深い学びや、10の姿として現れていることが、小学校の先生方にも伝わり始めている。
- ・一方で、自治体による差や校長の意識の違いによりその理解は大きく異なる。
小学校教師と保護者への啓発もまた重要ではないか